

# 中部人懇通信 No.2

人権教育  
主任対象

「中部人懇」とは「中部地区人権教育懇談会」を略した名称です。被差別部落の完全解放をめざし、中部地区同和教育の推進をはかることを目的に1971年（昭和46年）に発足しました。

「中部人懇」って  
こんな会です！



令和2年10月27日（火）に、ほくほくプラザ（北栄人権文化センター）で小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の人権教育主任を対象とした第2回中部地区人権教育懇談会を開催しました。その内容について報告します。

## 現地研修オリエンテーション 講師 北栄町生涯学習課人権教育推進員 堀江純子さん

堀江推進委員には、当該地域の歴史や同和对策事業の取組、2016年に施行された部落差別解消推進法、さらには部落差別をなくすためにどのような思いで研修会、交流会をしてこられたかについて説明していただきました。

自分たちが話していく、自分たちが頑張っていかななくては、部落差別はなくならないと考えていました。正しく伝え、正しく知ることが大切です。



子どもが差別発言をしたとき、なぜ差別発言をしたのか、先生方には、その背景を振り返り、目の前の子どもたちと向き合ってほしいです。

## 現地研修 講師 北栄町生涯学習課 課長 杉本裕史さん 人権教育推進員 堀江純子さん ほくほくプラザ 館長 中江人美さん

以前は、民家の敷地内に消火栓があったり、大雨になるとすぐに水が自宅に浸かったりしていました。



同和对策事業で地域の急傾斜、道路、下排水などの整備が行われました。その結果、当該地域だけではなく、隣接する地域の環境も整備されたのです。



## グループ協議 「現地研修で学んだことをどのように生かすのか」

地域の方の思いを聞きながら現地を歩くと、たくさんの人々の努力で変わってきた今があることが分かりました。



部落差別をないことにしている風潮の中で、自分自身がどう伝えていくかについて改めて考えました。次の世代へ正しく伝えたいです。

### 【参加者の感想より】

- ・実際に急傾斜地の整備状況を見たことで同和对策事業の必要性を感じた。差別を現実の問題として捉えられない子どもたちには、まずは自分が置かれている立場を振り返らせたい。
- ・堀江さんの「目の前の子どもと向き合う」という言葉が心に残った。子どもの現象面だけで判断することは、差別につながってしまう。子どもの背景にあるものにしっかりと目を向けたい。
- ・校種が違う先生方と人権同和教育の取組や課題、悩みなどを共有できてよかった。自校で取り組むべき内容が明確になった。